

3級損害保険登録鑑定人

保険・一般常識 試験問題用紙

(2023年1月)

注意事項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないでください。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認してください。解答用紙がない場合は直ちに申し出てください。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入してください。
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークしてください。記入漏れや間違った内容を記入・マークすると採点ができませんので、解答した内容はすべて無効（得点なし）となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出してください。問題用紙は持ち帰って結構です。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
5. 解答は、解答用紙の該当する問題の解答欄をぬりつぶしてください。
6. 1つの問題に指定数を超えるマークをつけた場合、その問題は0点となります。
7. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用してください。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外（万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等）は使用不可です。
8. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消してください。消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります。修正液等、プラスチック製消しゴム以外は使用不可です。
9. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないでください。
10. カンニング等の不正行為があったと認められた場合は、当該試験は不合格とし、原則としてその場で試験の中止と退室を指示され、それ以降の受験はできなくなります。
11. トイレや急な体調不良等を含め、一旦退席された場合の再入室はできませんので、ご注意ください。
12. 試験時間は正味50分です。
13. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
14. 試験時間中の私語は禁止します。
15. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまってください。
16. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいてください。
17. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いてください。
18. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出てください。

マークシート方式による正誤式または選択式の問題です。解答は解答用紙の該当するマークを塗りつぶしてください。

【問題 1】

次の1～8の記述は、火災保険の「物件の種類と判定」について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 住宅建物に付属する門、塀、垣は、住宅物件となる。
2. 物の製造、加工を行う建物において作業人員が常時 50 人以上の場合は工場物件となるが、この作業人員に臨時雇いやアルバイトは含まれない。
3. 住宅建物内に家財以外の動産を一時的に收容する場合、住宅建物、家財および家財以外の動産は、いずれも一般物件として取り扱う。
4. 損害保険代理店の事務所兼用住宅は、一般物件となる。
5. 工場敷地内に所在する住居専用建物は、工場の囲い（塀、垣、柵等）の中にあるときに限り、工場物件となる。
6. 住宅物件（一般建物）の建物の構造級別の判定において、準耐火建築物および省令準耐火建物の共同住宅は、T構造となる。
7. 一般物件（一般建物）において、1級および2級に該当しない建物（1級および2級の確認ができない建物を含む）は3級と判定する。
8. 一般物件の建物の構造級別の判定にあたり、一つの建物が2種以上の異なる柱の部分からなる場合には、それぞれの柱により判定される複数の構造級別のうち、最も低い基本保険料率の構造級別をもってその建物全体の級別とする。

【問題2】

Aさんは、店舗専用建物に保険金額3,900万円の店舗総合保険契約を締結していましたが、この建物から火災が発生し、同建物に3,000万円の損害を被るとともに、この火災の延焼により、隣家3世帯の住宅建物5棟のそれぞれ一部を焼失させてしまいました。

また、残存物の取片づけのために200万円を支出することになりました。

この場合に支払われる次の1～3の保険金について、下の選択肢から最も適切な金額をそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

なお、火災発生時のこの建物の保険価額は5,000万円とします。また、算出した保険金の額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で答えてください。

1. 支払われる損害保険金は、いくらになりますか。
2. 支払われる残存物取片づけ費用保険金は、いくらになりますか。
3. 支払われる失火見舞費用保険金は、いくらになりますか。

《選択肢》

ア. 0万円	イ. 20万円	ウ. 40万円	エ. 60万円
オ. 100万円	カ. 150万円	キ. 180万円	ク. 200万円
ケ. 293万円	コ. 300万円	サ. 390万円	シ. 1,380万円
ス. 2,925万円	セ. 3,000万円	ソ. 3,900万円	タ. 5,000万円

【問題3】

次の1～4の記述は、住宅総合保険について述べたものです。()内のアとイのうち、最も適切なものをそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

1. この保険において、火災によって保険の対象に生じた損害は保険金の支払い対象となるが、この損害には消防または避難に必要な処置によって保険の対象に生じた損害は(ア. 含まれる イ. 含まれない)。
2. この保険において、失火見舞費用保険金は(ア. 見舞先の被災世帯に直接 イ. 被保険者に対して)支払われる。
3. この保険では、水災による床上浸水で保険の対象に一定の損害が発生した場合、水害保険金が支払われるが、ここでいう床上浸水とは、居住の用に供する部分の床(畳敷または板張等のものをいい、土間、たたきの類を(ア. 含む イ. 除く))を超える浸水をいう。
4. この保険では、保険契約者または被保険者が(ア. 落雷 イ. 地震)によって保険の対象に生じた火災損害の拡大を防止するための消火活動で費消した消火薬剤の再取得費用に対して損害防止費用が支払われる。

【問題4】

次の1～4の記述は、「地震保険に関する法律」に基づく地震保険について述べたものです。()内のアとイのうち、最も適切なものをそれぞれ1つ選び、その記号を教えてください。

なお、本問においては、契約始期日および地震発生日は2017年1月1日以降であることを前提とします。

1. この保険において、居住の用に供する建物の所有者でない者が所有する浴槽、流し、ガス台、調理台、棚その他これらに類する物のうち建物に付加したものは、(ア. 建物イ. 生活用動産)に含めて契約する場合に限り、保険の対象となる。
2. この保険において、地震の際の地すべりにより、建物自体は全損に至らない場合でも建物全体が居住不能となり、再び居住の用に供する見込みがないなど、建物としての機能喪失の損害が生じた場合には、その建物を(ア. 一部損 イ. 全損)とみなして保険金が支払われる。
3. この保険において、地震を直接または間接の原因とする火災の延焼の損害は、その延焼の原因である火災の原因が地震の発生した日の翌日から(ア. 10日 イ. 1か月)以内に生じていれば、その延焼の損害が地震の発生した日の翌日から(ア. 10日 イ. 1か月)を経過した後に生じた場合でも保険金は支払われる。
4. この保険では、地震を原因とする火災により焼失した保険の対象である建物の床面積がその建物の延床面積の40%である場合、その建物は(ア. 小半損 イ. 大半損)と認定される。

【問題5】

Bさんは、自分の住居専用建物と同建物内収容の生活用動産（家財）を保険の対象として、住宅総合保険契約に「地震保険に関する法律」に基づく地震保険契約を付帯して締結していたところ、地震による火災でこの建物および生活用動産（家財）が損害を被りました。保険契約の内容および損害割合は次のとおりです。

この場合に支払われる次の1～3の保険金について、下の選択肢から最も適切な金額をそれぞれ1つずつ選び、その記号を教えてください。

なお、本問においては、契約の始期日および地震発生日は2017年1月1日以降であることを前提とします。また、算出した保険金の額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で教えてください。

〔保険契約の内容〕

	住宅総合保険		地震保険	
	建物	生活用動産（家財）	建物	生活用動産（家財）
保険金額	4,000万円	1,000万円	2,000万円	500万円

（注）地震発生時のこの建物および生活用動産（家財）の保険価額は、いずれも主契約である住宅総合保険契約の保険金額と同額とします。

〔損害の状況〕

	建物	生活用動産（家財）
損害割合	30%	50%

（注）建物の焼失床面積は考慮不要とし、建物の損害割合は、地震に起因した火災による地震保険における主要構造部の損害割合とします。

- 地震保険から建物の損害に対して支払われる保険金は、いくらになりますか。
- 地震保険から生活用動産（家財）の損害に対して支払われる保険金は、いくらになりますか。
- 主契約である住宅総合保険から建物および生活用動産（家財）の損害に対して支払われる地震火災費用保険金は、合計でいくらになりますか。

《選択肢》

ア. 0万円	イ. 50万円	ウ. 100万円	エ. 150万円
オ. 250万円	カ. 300万円	キ. 350万円	ク. 450万円
ケ. 500万円	コ. 550万円	サ. 600万円	シ. 800万円
ス. 1,000万円	セ. 1,200万円	ソ. 2,000万円	タ. 4,000万円

【問題6】

次の1～4の記述は、「損害保険の保険金支払に関するガイドライン」について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ教えてください。

1. 契約者等や損害保険会社の代理人として、弁護士が示談交渉や保険金請求手続き等の説明を行う場合は、損害保険会社において、契約者等や被害者への事前説明や弁護士との打ち合わせが適切に行われる態勢を整備しなければならないが、弁護士による説明・対応の適切性の検証まで行う必要はない。
2. 損害保険金の支払いにあたり、お客さまにとって望ましいものであり、適時・適切な保険金支払の確保の観点から行われるものであれば、このガイドラインの記載内容どおりの対応でなくても、その対応を妨げるものではない。
3. 損害保険会社は、今後保険金支払が見込まれる事案について、見込まれる支払金額を支払備金として計上するとともに、支払備金の適切な管理を行う必要があるが、備金計上の根拠となった情報・書証は記録保存する必要はない。
4. 損害保険会社において、事故の受付を行った後に保険契約者等からの具体的な保険金請求がない事案については、損害保険会社から保険契約者等への請求意思確認のための連絡を行う必要はない。

【問題7】

次の1～6の記述は、新種保険について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 賠償責任保険の施設所有者特別約款において、病院・薬局等の治療・調剤・施術、弁護士・建築士等の職業行為など、専門的職業行為に起因する損害賠償責任は、保険金支払いの対象となる。
2. 動産総合保険において、盗難により保険の対象に損害が生じた場合、その損害は保険金支払いの対象となる。
3. 機械保険では、損傷を受けた保険の対象である機械を稼働可能な状態に復旧するために要する修理費から残存物価額を控除した額が損害の額となる。
4. 組立保険において、原料または燃料その他これらに準ずる物は、保険の対象に含まれる。
5. 建設工事保険において、保険の対象の設計、施工、材質または製作の欠陥を除去する費用は保険金支払いの対象となる。
6. 土木工事保険において、工事中材料および工事中仮設材は保険の対象に含まれる。

【問題8】

次の1～4の記述は、「自動車保険の対物賠償保険」について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ教えてください。

1. この保険において、他人に損害賠償を請求することができる場合に、権利の保全または行使に必要な手続きをするために要した費用（収入の喪失を含まない）は、損害の一部とみなして保険金が支払われる。
2. この保険では、自動車修理業や自動車販売業などの自動車取扱業者が、業務として受託した被保険自動車を使用または管理している間は許諾被保険者とはならない。
3. この保険では、「保険期間中の総支払限度額」が設定され、この金額が保険期間中に支払われる保険金の限度額となる。
4. この保険において、記名被保険者が被保険自動車を運転中に、台風のため被保険自動車が横転し、他人の自動車を破損させた場合、その破損による損害は保険金支払いの対象となる。

【問題9】

次の1～4の記述は、保険価額の評価について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ教えてください。

1. 損害保険契約は、被保険物件の原状回復が目的であることから、評価にあたっては、継続使用財は取得原価額が、交換財は時価額がそれぞれ保険価額となる。
2. 評価方法の一つである定率法では、経年減価は毎年一定となる。
3. 一般商品の評価にあたっては、売残品・棚ざらし品などの「デッドストック」が混在している場合があり、これらの「デッドストック」は、本来の取引価格ではなく、「デッドストック」としての市場価格によるか、または別途値引きの考慮などをして保険価額を算定する必要がある。
4. 建物の評価では、火災などにより基礎部分にも何らかの被害が及ぶケースが多いことから、基礎工事費を必ず含めて契約する。

【問題 10】

次の 1～4 の記述は、損害保険契約に関する法律知識について述べたものです。
 にあてはまる最も適切なものを下の選択肢からそれぞれ 1 つずつ選び、その記号を答えてください。

1. 保険給付を請求する権利は、行使することができる時から 年間行わないときは時効によって消滅する。

《選択肢》

2. 保険約款で定める支払期限が、必要な事項の確認のための「相当の期間」を超えている場合、「相当の期間」を超える日をもって保険金の支払期限とし、その日から保険者は の責を負う。

《選択肢》

3. 保険金額に同一の保険料率を乗じて保険料が算出される保険契約では、 の場合、保険者が損害てん補責任に見合った保険料を確保するためには、比例てん補責任が最も合理的と考えられている。

《選択肢》

4. 保険契約は、他の法律に特別の定めがある場合を除き、基本的に の規定が適用される。

《選択肢》

【問題 11】

次の1～8の記述は、損害賠償に関する法律知識について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 責任無能力者が第三者に損害を与えた場合、監督義務者が加害行為によって生じた損害を賠償しなければならないが、監督義務者から直接の加害行為者である責任無能力者に対して求償することはできない。
2. 法律上の損害賠償責任は、「不法行為責任」と「債務不履行責任」に分けられるが、ある行為が発生した場合に、その行為が両方の責任に該当することがある。
3. 土地の工作物等の設置または保存に瑕疵がなくても全く予想外の大規模な地震により他人に損害が生じるほどの不可効力の場合は、因果関係がないとして、法律上の損害賠償責任を負わない。
4. 国または公共団体の公権力の行使に当たる公務員が、その職務上、故意または過失によって違法に他人に損害を与えた場合、国または公共団体が損害の発生を防止するために必要な注意をしたことを証明したときは、国または公共団体は損害賠償責任を負わない。
5. 判例では、不法行為により幼児や老人が身体障害を被り、被害者の扶養義務者である父母または子が治療費などを負担した場合、損害賠償請求を認めている。
6. 民法では、使用者責任について、使用者のみが責任負担者として規定され、事業を監督する者には損害賠償の責は及ばない。
7. 金銭の給付を目的とする債務の不履行の場合、金銭債務の遅滞による損害賠償の額は、原則として債務者が遅滞の責任を負った時点での法定利率によって定められ、当事者間で法定利率より高い利率で約定されていた場合は無効になる。
8. 共同不法行為者の連帯責任は、判例では「不真正連帯債務」と解され、損害の全額について各自がそれぞれ弁済する責任を負うが、その内の一人が完済すると、他の連帯債務者の債務も消滅する。

【問題 12】

個人情報保護法に関する次の1および2の記述の正誤の組合せとして、最も正しいものを下の選択肢からそれぞれ1つずつ選び、その番号を教えてください。

1. 第三者提供の制限について

ア. この法律では、利用目的の達成に必要な範囲内で個人データの取扱いの全部もしくは一部を委託する場合、個人データの提供を受ける者は第三者に該当するため、あらかじめ本人の同意を得ないで当該個人データを提供してはならない。

イ. この法律では、本人の同意を得ることが困難な状況で、人の生命、身体または財産の保護のため必要がある場合には、あらかじめ本人の同意を得なくても個人データを第三者に提供することができる。

《選択肢》

- | | |
|-------------|----------|
| 1. ア. 正しい | イ. 正しい |
| 2. ア. 正しい | イ. 誤っている |
| 3. ア. 誤っている | イ. 正しい |
| 4. ア. 誤っている | イ. 誤っている |

2. 対象となる個人情報について

ア. この法律では、個人識別符号として「生年月日」が含まれる。

イ. この法律が対象としている個人情報は、生存する個人に関する情報である。

《選択肢》

- | | |
|-------------|----------|
| 1. ア. 正しい | イ. 正しい |
| 2. ア. 正しい | イ. 誤っている |
| 3. ア. 誤っている | イ. 正しい |
| 4. ア. 誤っている | イ. 誤っている |

【問題 13】

次の1～8の記述は、リスクマネジメントについて述べたものです。その内容が適切なものには○で、不適切なものには×で、それぞれ教えてください。

1. 財務リスクは、「損失を被る可能性」だけがある純粹リスクに分類される。
2. 英語では、一般に火災・爆発・盗難などの「損害発生の原因」のことをロス・エクスポージャーという。
3. 投機的リスクのうち、信用リスクはリスクの分散が可能であるため、保険の対象となる。
4. リスク・コントロールにおける「リスクの分散」は、「損害の発生頻度」は増加するが、1事故あたりの「損害の規模」が軽減され、損害額を平準化することができる。
5. 頻繁に発生するが損害額の小さいリスクには、「リスクの保有」を選択し、経常費で処理することが合理的である。
6. リスクの保有の形態のうちリスク・プールとも呼ばれている「自家保険プール」は、企業グループ内に保険会社を設立し、その保険会社が親会社・グループ会社の保険契約を引き受ける形態である。
7. 代替的なリスク移転の一つであるデリバティブ（金融派生商品）は、市場リスクをヘッジ（軽減・回避）するための商品であり、天候リスクなどの純粹リスクをヘッジするのには適していない。
8. 製造物責任において、製造業者等には開発危険の抗弁の免責が認められていない。

【問題 14】

次の1～4の取引について、下の勘定科目・金額を用いて仕訳を行い、勘定科目・金額は下の選択肢から最も適切なものをそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

なお、勘定科目・金額の選択肢は、必要に応じて何度使用しても構いません。

- 次の商品を仕入れ、代金のうち¥400,000は小切手を振り出して支払い、残額は翌月払いとした。
冷蔵庫 4台 @¥90,000 電子レンジ 5台 @¥30,000
- 貸付金¥240,000の返済を受け、その利息¥20,000とともに、先方振出しの小切手で受け取った。
- 取引銀行から現金¥300,000を借り入れた。なお、利息20%（年利）は返済のときに支払うことになっている。
- 当月分の家賃¥90,000を借主が振出した小切手で受け取った。

《勘定科目 選択肢》

ア. 備品	イ. 買掛金	ウ. 資本金	エ. 当座預金	オ. 借入金
カ. 売掛金	キ. 受取家賃	ク. 支払利息	ケ. 消耗品費	コ. 通信費
サ. 貸付金	シ. 水道光熱費	ス. 商品	セ. 商品売買益	ソ. 受取利息
タ. 現金				

《金額 選択肢》

a. 10,000円	b. 20,000円	c. 30,000円	d. 60,000円
e. 90,000円	f. 100,000円	g. 110,000円	h. 120,000円
i. 220,000円	j. 240,000円	k. 260,000円	l. 300,000円
m. 360,000円	n. 400,000円	o. 510,000円	p. 520,000円